

優秀賞

事故の経験よりこれからの自分の行動

(中 部) 二葉物産(株) 前 田 夏 樹

私は今年五月に追突事故を起こしてしまいました。完全に私の前方不注意であり言い訳はできません。被害に遭った方は三名で、それぞれ首や腰を痛めてしまいました。今後も事故に遭った恐怖や通院などで時間を費やしてしまうことを思うと申し訳ない気持ちでいっぱいです。

後日、再度謝罪に訪問した際も「事故をしたあなたの方が色々大変でしょう」と私の事を気にして下さり、言葉もありません。また、社用車で事故であり会社の財産を傷つけたこと、速やかに処理をして下さった上司に対して情けない気持ちです。

この事故をきっかけに自分のこれまでの運転を振り返ってみました。歩行者や自転車が急に車道に飛び出してきた事、バイクが一旦停止を無視し衝突しそうになった事、交差点で信号無視してきた乗用車と衝突しそうになった事などの記憶がどんどん思い出してきました。これほどのヒヤリ・ハットの経験をしていながら事故に遭わなかった事で、いかに自分が車の運転能力を過信していたかがよく分かりました。

これはトラックの乗務員達にも当てはまることで、一般のドライバーよりも圧倒的に運転する時間が長いので様々な体験があり、経験値も豊富です。これが幸か不幸か、ヒヤリ・ハットに遭っても経験で切り抜けてしまうので危険だった事の感覚がマヒしてしまう可能性があります。

安全教育を指導する際悩むことが多いのですが、事故事例やKYTを行っても中々浸透していかない「置き換え発想」の難しさです。たまたま事故が起きなかっただけで埋もれてしまう大事なヒヤリ・ハットもあります。些細な事でも事故を防ぐ重要なヒントが隠れているかもしれないので、聞く側も注意を払い拾っていくことで、建設的な意見が飛び内容のある話し合いができると思います。

乗務員は運転のプロであるので、一人一人の意見は本当に参考になり、勉強になります。事務的に事

故を周知させるだけでは危険意識を植えさせることはできないので、お互いに熱意を持って真剣に話し合えば徐々に当事者意識も芽生えてくることでしょう。芽生えたところで終わらせてしまっただけでは枯れてしまうので、継続して話すことで安全意識を大きくしていく事が重要になってきます。

まず私が乗務員一人一人にコミュニケーションをとり、ふと考えてもらうきっかけを作っていこうと思います。

失敗して得る経験で皆成長していきますが、事故は取り返しがつかなくなる大きな代償がともなうこともあります。

過去には大きな人身事故や死亡事故も仲間が起こした事もあります。その度に、こうすれば良かったなど後悔してきました。自分の行動により救われる命もあると常に思い乗務員と接していこうと思います。自分の命・他人の命を守っていくことが、これからの使命だと強く心に刻み業務に励んでいきます。私の事故で被害に遭った方々のせめてもの償いでもあります。